



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No.248
2018.11▶12

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2018 年 11 月 1 日
編集・発行 一般財団法人千里文化財団

催 し の こ 案 内

阪急生活楽校にみんぱくの研究者が登場します！

特別講演会

世界遺産マチュ・ピチュ ——神秘のベールを剥ぐ

講師：関 雄二（民博教授）



世界文化遺産マチュ・ピチュは有名だが、考古学的情報は意外にも少ない（撮影・関雄二）

古代アンデス文明の宝庫、南米ペルー共和国。なかでもインカ帝国時代の遺跡マチュ・ピチュはその絶景を求めて旅行者の絶えない人気の世界遺産です。遺跡の担った役割や探検家による発見の経緯、地元住民と世界遺産との関係まで、知られざるマチュ・ピチュを徹底的に紹介します。

日 程：11月26日（月）14:00～15:30（開場13:30）

会 場：阪急うめだホール（阪急うめだ本店9階）

参 加 費：友の会会員500円、一般1,000円／定員300名

申込方法：友の会事務局、もしくは阪急生活楽校の受付フォームよりお申し込みください（要事前申込・先着順）。

阪急生活楽校

第一線で活躍しているゲストを迎え、暮らしを「楽しむ」ためのヒントを学びます

<http://www.hankyu-dept.co.jp/honten/h/seikatsugakkou/index.html>

緊急企画！岡山市立オリエント美術館に行こう！

現在、岡山市立オリエント美術館で展覧会「国立民族学博物館コレクション ビーズ——つなぐ かざる みせる」を開催しています。「みんぱく特別展開催から1年半。美術館を会場に、資料の選定や見せ方にも工夫して、より洗練された展示に仕上がりました！」と企画者の池谷和信先生も自負するこの展覧会。進化した展示を楽しんでいただきたく、ギャラリートークつきの講演会を開催します。

トークイベント

みんぱく友の会・オリ美友の会相互企画

時と場所をつなぐビーズ

話 者：池谷 和信（民博教授）

四角 隆二（岡山市立オリエント美術館学芸員）

坂 憲一（トーホー株式会社）

※個別講演と意見交換、ギャラリートークをおこないます。
プログラムは、友の会のホームページをご覧ください。

日 程：11月25日（日）13:30～15:30

会 場：岡山市立オリエント美術館

<http://www.orientmuseum.jp>

参 加 費：要観覧券（友の会会員800円、一般1,000円／定員50名）

申込方法：友の会事務局までお申し込みください（要事前申込・先着順）。

乗車希望20名以上で
往復バスを準備します！

10 時頃 JR 茨木駅、阪急茨木市駅、大阪モノレール万博記念公園駅出発（19 時頃帰着）の岡山市立オリエント美術館行きのバスの準備を予定しています。往復乗車賃 6,500 円。ご希望の方は 11 月 14 日（水）までに友の会事務局までご連絡ください。（手配確定後、集合時間等詳細をご案内いたします。希望者が 20 名に満たない場合は手配がありませんので、あらかじめご了承ください）



2018年11月 相互割引提携館に国立科学博物館が加わります

会員証を提示すると割引料金で観覧できる提携館に、新しく国立科学博物館（東京）が加わりました。上野本館を割引料金でご利用いただけます（特別展は割引が適用されない場合があります）。是非、提携館割引をご利用ください。

- 国立科学博物館 <http://www.kahaku.go.jp>
- 提携館（14 館）ならびに割引対象となる万博記念公園周辺施設（2 施設）については、友の会のホームページをご参考ください。
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/service/

2019年 国立民族学博物館オリジナルカレンダー



好評
販売中

会員価格 1,458 円（税込）
一般価格 1,620 円（税込）
オールカラー 28 頁、解説付き

お問い合わせ・通信販売

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ
TEL 06-6876-3112（水曜日定休日）
メール contact@senri-f.oe.jp
※通信販売の場合、1か所につき送料手数料 400円が別途必要です。

【募集】第80回体験セミナー

長崎県、潜伏キリシタンの足跡を訪ねる — 生月島、平戸島、上五島をめぐる

講師：宮崎 賢太郎（長崎純心大学客員教授）

日時：2019年2月22日（金）～2月25日（月）【4日間】

申込締切：2019年1月11日（金）

参加費：134,000円（行程中の移動費、食費、宿泊費【相部屋】、見学費を含む）

募集人数：23名（最少催行人数15名）〈先着順〉

※正会員もしくは体験会員にご登録いただくことで、一般の方もご参加いただけます。

※宿泊条件：2名1室、食事回数：朝3／昼4／夜3（左記以外の宿泊希望がある方はご相談ください）



生月島／カクレの最高役職者川崎家に祀られる諸祭壇。左からお大師様、仏壇、カクレ、神棚（提供・宮崎賢太郎）

同行講師

宮崎 賢太郎（長崎純心大学客員教授）

日本におけるキリシタン時代の始まりから現代まで、日本人のキリスト教の受容と変容のあり方を研究。カクレキリシタンが暮らす地域でのフィールドワークを35年近くおこなっている。おもな著作に『潜伏キリシタンは何を信じていたのか』（角川書店）、『カクレキリシタン—現代に生きる民俗信仰』（角川ソフィア文庫）など。

旅の行程

■ 2019年2月22日（金）

集合：①長崎空港（10時）

②佐世保ワシントンホテル（11時）

田平教会を見学したのち、カクレキリシタンの生月島へ。カクレの神様をいまでも祀る個人宅と、解散した集団の御堂を拝見し、オラショを唱えてもらいます。捕鯨とカクレの信仰を紹介する平戸市生月島町博物館 島の館、殉教者ガスバル様の祠を見学。移動の道中で世界遺産登録の聖地中江ノ島、春日集落を遠望します。平戸海上ホテル泊。

■ 2月23日（土）

朝、平戸ザビエル記念教会と寺院が重なる風景を散策しながら、平戸藩主松浦家の私邸跡地を利用した松浦史料博物館へ。平戸島内を移動して紐差教会を見学したのち根獅子地区へ。平戸市切支丹資料館や殉教者を祀るオロクニン様の祠、根獅子浜の昇天石を見学。夕方、フェリーで中通島（上五島）へ移動します。ホテルマリンピア泊。

※レクチャー1「現代のカクレキリシタン信仰」

■ 2月24日（日）

朝、現在無人である野崎島（上五島）へ船で移動。世界遺産登録の旧野首教会やキリシタン集落跡を見学。午後、中通島に戻り、青砂ヶ浦教会、大曾教会、中ノ浦教会を見学します。民宿えび屋泊。

※レクチャー2「潜伏キリシタンは何を信じていたのか」

■ 2月25日（月）

キリシタン神社として位置づけられる山の神社、桐教会を見学。その後、世界遺産登録の頭ヶ島教会へ。海岸部で産出する砂岩を積んだ珍しい石造り教会で、近くにはキリシタン墓地もあります。午後、フェリーで長崎へ。

解散：①中通島 有川港（14時）

②長崎駅（16時10分） ③長崎空港（17時）

※行程は諸事情により変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

一六世紀、アジアに進出したポルトガルは、貿易の拡大とキリスト教の布教を目的に日本にやってきました。イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルは一五四九年に鹿児島に上陸、翌年には平戸に赴き、領主・松浦隆信より宣教の許しを得ました。ザビエルが日本を去ったのも、西九州を中心に信者の数は急速に増大していきます。

その一方で為政者は、宣教師らの影響力と信者たちの強い結束力に、次第に警戒を強めました。豊臣秀吉の伴天連（宣教師）追放令、さらに厳しい徳川政権の禁教政策を経て明治六年に禁教令が解かれるまで、二百数十年にもおよぶ潜伏の時代を迎えます。長い潜伏時代における彼らの信仰の実像とは一体どのようなものだったのでしょうか。

現在、長崎県内の各所で見られるカトリック教会の多くは、禁教が解かれて以降、カトリックに復帰した信者らが建築したものです。一方で、信仰の自由が認められたのちもカトリックに戻らず、潜伏時代の信仰のあり方を継続した「カクレキリシタン」とよばれる人びとも存在します。彼らが伝えてきた組織、行事、神様、オラショ（祈り）には、外来のキリスト教文化



「御前様」とよばれるカクレキリシタンのご神体のお掛け絵 受胎告知の場面（提供・宮崎賢太郎）

の影響が見て取れますが、その実態は祖先崇拝を土台とし、神道や仏教とともに信仰する独自に展開した民俗宗教でした。現在、彼らはもちろん身を隠すことなく暮らしていますが、時代とともに地域共同体のあり方が様変わりし、組織の解体の危機に直面しています。

第八〇回体験セミナーではカクレキリシタンの組織が残っている生月島、キリスト教流入の地である平戸島、多くの潜伏キリシタンが取り締まりを逃れて移り住んだ上五島（中通島、野崎島）に足を運び、「世界遺産」だけでは知ることのできない、潜伏キリシタンの足跡とその真実をさぐります。みなさん、ぜひご参加ください。

お問い合わせ・お申し込みについて

お電話にて友の会、阪急交通社までお問い合わせください。申込締切日（2019/1/11）を目安に、参加手続き書類・パンフレットをお送りします。友の会会員以外の方は、正会員もしくは体験会員にご登録ください。なお、正会員同伴の方は1名に限り、会員登録なくご参加いただけます。詳しくは国立民族学博物館友の会までお問い合わせください。

研修企画

一般財団法人千里文化財団 「国立民族学博物館友の会」係
TEL：06-6877-8893 ※受付時間：平日9:00～17:00

旅行企画 実施

株式会社阪急交通社 団体営業部大阪団体支店営業2課
観光庁長官登録登録旅行業 第1847号
TEL：06-4795-5928 ※営業時間：平日10:00～17:30

モンゴル、遊牧の民に出会う

—— 播籃の地オルホン川上流域と草原都市ウランバートルを訪ねる

講師：小長谷有紀（民博教授）

イチンホルローギーン・ルハグワスレン

（モンゴル科学技術大学教授）

期間：2018年8月8日（水）～15日（水）【8日間】



エンフバト一家と記念写真。お父さんとお母さん、男の子2人の4人家族。旅をサポートしてくださった総合研究大学院大学の卒業生である堀田あゆみさんの調査宅でもある。新調されたゲルで乳の攪拌や乳製品の成形、屋外では牛の搾乳を体験させていただいた

草原の白い食べもの＝乳製品

参加者が形成したアーロール。すっばくって硬いチーズ。保存が利く



乳を高い位置からひしゃくで落として乳脂肪分の分離を促しウルム（クリーム）をつくる。上澄みはウルムに、のこりはタラグ（ヨーグルト）として食べる

エンフバト家のお母さん、ミンジンさんによる乳製品づくり。ウルム、タラグ、アーロール、アルヒ（蒸留酒）づくりを見せていただいた。乳の加工作業は女性の仕事



写真撮影：荒川裕子さん、児玉昭男さん、額賀敏秀さん、堀田あゆみさん、事務局



契丹時代の都城跡ハルボヒン・バルガス。史跡は遊牧民の歴史を後世に伝える貴重な記録



参加者全員でゲルの組み立て体験。あわせて見学したヒツジの解体は無駄のない手さばきだった



子ウマをおとりに母ウマの乳の出を促す。ウマの搾乳は左足を抱きかかえるようにしておこなう

参加者の感想

台風のハプニングにもかかわらず、全行程をもらさずこなしてくださり、小長谷先生の研究・実践・モンゴルへの思いを惜しげもなく教えてくださったことに感謝しています。内モンゴルの旅（第84回）との比較ができたこと、エンフバト家のなかに入ってさまざまな体験ができたことは貴重な経験でした。（池谷正子さん）

農地化が進んでいる草原と違い、モンゴルの本物の草原を見ることができ、遊牧民の帝国が次々と興隆した時代をしることができました。歌の掛け合いをしたり、指差し会話帳でお話したりと、モンゴル人のドライバーさんと交流できたので、長時間の移動も大変楽しいひとときでした。（十枝紀巳代さん）

昨年度に続き、今年もモンゴル国を訪ねました。遊牧民族の興亡を物語る史跡が点在するオルホン川上流域、そして国民の約半数が居住する首都ウランバートルを拠点に、モンゴル遊牧民の営みと歴史、精神性をさぐってまいりました。

今年はあらたに、みんなの中央・北アジア展示場にゲルと家財道具一式を譲ってくださいましたエンフバト家を訪ね、家畜の放牧や搾乳、乳製品づくりを見せていただきました。動物の習性を生かして最小限の労働力で牧畜を営み、加熱と攪拌の組み合わせで多様な乳製品を生み出すその知恵に目を見張りました。出発の日には台風に見舞われ、滞在期間が一日短くなるというハプニングもありましたが、講師と参加者のみなさんが団結し、四駆で草原を駆け抜けながら、無事全行程をこなすことができました。参加者の感想とともに、旅の様子をご紹介します。

おもしろい家畜に遭遇！



貞操帯をつけたヤギのタネ雄。雄の占める割合がほかの地域より多いのがモンゴルの牧畜の特徴



勝手に乳を飲まないよう、鼻面に板をつけられた2歳の子ウシ。乳離れを促す知恵

■第483回■「企画展「アーミッシュ・キルトを訪ねて」——そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」関連」

アーミッシュの信仰と文化 ——歴史から現代へ

講師:踊共二(武蔵大学教授)

日時:12月1日(土)13時30分～14時40分

アーミッシュは北米の田園地帯に暮らしキリスト教の一派で、素朴なライフスタイルを特徴とします。過剰を好まず、教育や医療も自分たちでおこなうとします。その起源は一七世紀末のスイスで、母語はドイツ語です。聖書の教えを厳格に守る彼らは、派手な芸術を好みません。一方、先祖伝来のカリグラフィー(文字装飾)、書籍印刷、木工、手織りのキルトにみられる豊かな色彩と温もりのあるデザインはじつに魅力的です。彼らの来歴とともにその暮らしを紹介します。

※講演会終了後、解説付きで企画展の見学会をおこないます(40分)。見学会にご参加の方は会員証もしくは展示観覧券をご提示ください。【解説 鈴木七美(民博教授)】

イベントスケジュール

■特別展「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」
開催中～11/27(火)

■企画展「アーミッシュ・キルトを訪ねて——そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」
開催中～12/25(火)

■年末年始展示イベント「いのしし」

12/6(木)～2019/1/22(火)

※年末年始休館日:12/28(金)～2019/1/4(金)

●友の会講演会

11/3(土・祝)我妻和樹、日高真吾

12/1(土)踊共二、鈴木七美

●みんなくゼミナール

11/17(土)太田心平(会場:本館セミナー室ほか)

12/15(土)韓敏(会場:特別展示館)

●みんなくウィークエンド・サロン

11/4(日)藤本透子 11/11(日)三尾稔

11/25(日)日高真吾、小谷竜介

12/2(日)齋藤晃 12/9(日)広瀬浩二郎

12/16(日)吉田憲司

●その他の催し

11/3(土・祝)シンポジウム「バスケットと人類」

11/3(土・祝)公開フォーラム「世界の博物館2018」

11/8(木)ミンパク オッタ カムイノミ

11/17(土)、18(日)北大阪ミュージアムメッセ

11/17(土)、18(日)無料観覧日

(本館展示・企画展のみ)

【館外での開催】

[大阪]

●みんなく映画会

(会場:ホテル阪急エキスポパーク)

11/4(日)みんなくワールドシネマ「彷徨える河」

11/24(土)「映画が拓く新たなバリアフリーの世界」

●阪急生活楽校(会場:阪急うめだホール)

11/26(月)特別講演会 関雄二

[東京]

●11/2(金)公開講演会「音楽から考える共生社会」

(会場:日経ホール)

●12/8(土)東京講演会 丹羽典生

[岡山]

●11/25(日)トークイベント(会場:岡山市立オリエント美術館)

◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

■第484回■「みんなく名誉教授シリーズ」

南の島の贈りもの、 民博からのお返し

——研究成果の現地還元とは

講師:須藤健一(堺市博物館館長/民博名誉教授)

日時:2019年1月5日(土)13時30分～14時40分

人類学者は自身の好奇心と学的関心からフィールドワークをおこないます。これが現地の人びとの好意に甘えて衣食住をともにし、ことばや生き方や世界観などを知るための調査方法です。有形無形の文化財も収集します。調査で学んだ貴重な情報や知識や技術や造形は、研究の源となり、博物館の「お宝」です。一方、それらは現地の人びとにとってどんな意味や価値があるのでしょうか。人類学者と被調査者とのかわりについて再考します。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

■第124回東京講演会■

野次から応援へ

——応援の比較文化論の試みから

講師:丹羽典生(民博准教授)

日時:12月8日(土)13時30分～14時40分

会場:モンベル御徒町店4Fサロン(定員:60名/申込先着順)

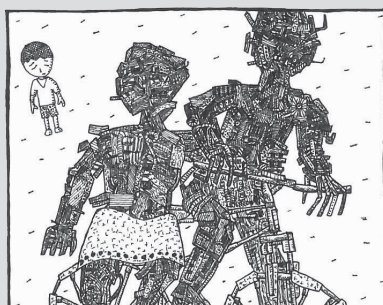
応援というのは人間にありふれた行為です。しかし世界各地のスポーツの場における応援を比較してみると、それぞれの国の事情が垣間見えたりします。また日本の応援団という存在は、日本的な文化として注目を浴びることがあります。ところが日本の応援団をあらためて応援する組織の来歴に位置付けて眺めてみると、意外と外来文化の影響を受けたとおぼしき側面が立ち現れてきます。本講演では、応援をめぐる研究をすすめていくなかで見えてきたことについて紹介します。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

※事前にお申込みください。実施1週間前を目安に参加証をお送りします。

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



九月廿七日(月)
自転車に乗る人、
銃の廃品、
ツ等デ作ラ
レティマス。
二人ハドコへ行
ンダロウ。

会員による
会員のための学習機会

みんなく友の会
雑学サロン

ぶらぶら民族学

「豊中・勝部遺跡と着陸スポット」説明会

日時:11/17(土)15:15～16:30

場所:本館2階第7セミナー室

申込不要
会場にて友の会
員証、フリーパスを
ご提示ください。

問い合わせ先:田和、谷北、山本(実行委員) zatsugakusalon@gmail.com

富士山——信仰の世界

講師：秋道 智彌（山梨県立富士山世界遺産センター所長、
民博名誉教授）

実施日：2018年8月26日（日）～8月27日（月）



吉田の火祭で見学した「金鳥居」と大松明

お天気に恵まれ、この時期には珍しく雲のかかっている快晴の富士山を眺めながら開催することができました。山梨県立富士山世界遺産センターや信仰の姿を残す富士吉田市上吉田地区、^{おしのはつかい}忍野八海などの訪問先では、地元の研究者などさまざまな方からお話をうかがいました。26日には「吉田の火祭」を見学、翌27日には神輿を納めるときに氏子が手に持つ「ススキのウテクラ（幣、玉串のこと）」を富士講先達の指導のもととらせていただくなど、貴重な体験ができました。富士山とともに生きる地元の方の姿から、信仰が現代にも息づいていることを実感しました。富士山を信仰する神聖な気持ちを感じ、富士山信仰の世界に引き込まれるような旅でした。

参加者の感想

「体験」が発見と感動をもたらすものであることを改めて確認できました。現地で参加するからこそ得られるうれしいハプニングもたくさんありました。ずうずうしくもおよばれてしまった地元の研究者の先生宅でのお話と接待。民宿「原の家」さんでの掛軸拝見。

知識としては知っていたけれども溶岩樹型※内がずっと中腰で歩かなければならず、あんなにしんどいとは。絵図ではたしかに膝あてでもしていてローソクを手にしてちよつと苦行かなとは思っていましたが……。

（木村史子さん）

火祭を見、翌日の還幸祭（すすき祭）の準備を見学させていただいたのは、とても良い体験でした。火祭の夜、お住まいに招いていただいていたお話を聞かせていただいたのは思いがけないことでしたが、ただの観光客ではなく、自分もお祭に参加しているような気持ちになりました。

特に印象に残った場所は忍野八海です。ただ湖が干上がった後に残った湧水池かと思っていました。に、飢饉対策の土木事業として整備されたこと知り驚きました。江戸時代にもそんなことを考える人がいて、将来観光事業として収益を上げると見込んでいたなんてすごいと思いました。富士山は単に信仰の対象ではなく、一種のコミュニティメントパークだったのかも知れないと思いました。

（土屋佳英子さん）

吉田の火祭はたいへんな人出でしたが、地元の研究者のおうちに上り込み遠くのお神楽の音を聞きながらおうかがいしたお話に感銘しました。富士山信仰に関わる東海道からの視点と諏訪明神系の東山道の視点、甲斐国の人びとの富士山への思いを実感しました。（中略）

天保の飢饉からの村再興を八海整備による富士講の集客で画策したという、東円寺住職のお話は非常に興味深かったです。

（西村昌司さん）

※溶岩樹型 山から流れ出た溶岩が樹木をまるごと取り込んで固まり、樹幹の燃えつきた跡が空洞化した洞穴。

東京講演会 実施報告

■第123回■6月23日（土） 会場：モンベル渋谷店5Fサロン

【第92回民族学研修の旅関連】

ヒンドゥー教祭礼の読み解き方

三尾 稔（民博教授）

ヒンドゥー教の祭礼は神話の出来事を皆で再演して神々の力を讃え、その力に与ろうとするパターンと、季節のつぎが巡る巡りを祝い豊作や繁栄、無病息災などを願うパターンとに大別されます。いずれも太陽太陰暦によつておこなわれますが、ふたつのパターンが重なり合うと大規模な祭礼になります。例えば北インドで三月頃に大規模に祝われるホーリーでは、ヴィシヌ神と魔女ホーリーカーの戦いにまつわる神話を下敷きに、日本の小正月の「どんと」に似たものを辻々に立て、その先にホーリーカーの人形をくくりつけて焼き、ヴィシヌの勝利を祝います。同時に冬の終わりを喜び、過ぎ去った年のケガレを焼き払い、豊作や家族と社会の繁栄を願うためのさまざまな行事がおこなわれます。

一方、九月末から一〇月頃のナヴァラトトリは、女神が水牛の姿をした魔王を滅ぼしたという神話をベースにしており、水牛やヤギを女神に供儀として捧げて女神の生命力を讃え、その力に与る祭礼で、これも北インドで幅広く祝われます。地域によつては同じ時期にラーマヤナにまつわる神話を再演しラーマ神の勝利を祝う祭礼をおこなうこともあります。この時期は夏播き作物の収穫と秋播き作物の植え付けのシーズンにあたり、祭礼では豊穰や無病息災を願う行事も合わせておこなわれます。



ウダイプル市のナヴァラトトリ祭の様子

■第479回■ 8月10日(金) 会場：ニフレル

日本人のブラジル移住と コーヒー文化の逆流

—— カフェーパウリスタ箕面喫茶店を中心に
中牧弘允(千里文化財団理事長、吹田市立博物館長、民博名誉教授)

日本人のブラジル移住は一九〇八年にはじまり、サンパウロ州のコーヒー農園の労働者として生産に従事しました。他方、サンパウロ州政府はコーヒー豆を無償提供し、日本にコーヒーの消費を根付かせようとしました。その仲立ちをしたのが

「移民の父」と称せられる水野龍(りゅう)です。かれは一九一一年、合資会社カフェーパウリスタを設立し、銀座をチェーン店の本店としましたが、それより半年はやく、箕面駅前に一号店がオープンしました。コロニアル風の洋館に店をかまえたカフェーパウリスタは山林こども博覧会の開会式でもコーヒーを提供しています。その洋館はその後、豊中市に移築され、近年まで長期間にわたり豊中俱樂部自治会館が使用してきました。

二〇一三年一〇月一日、その建物の解体がはじまり、一部の部材は同自治会館や豊中市文化財保護課が保存することとなりました。民博特展場地下において開催された二〇一三年の北大阪ミュージアムメッセでは



北大阪ミュージアムメッセの展示(2013年)

カフェーパウリスタ箕面喫茶店のことが模型や映像とともに紹介されました。その後、大阪歴史博物館、高知県立図書館、高知県佐川町、箕面市立郷土資料館、JICA横浜海外移住資料館などでも趣向を変えて展示されました。

カフェーパウリスタ甲陽園店の建物も二〇一六年に解体されましたが、一部の部材は神戸市立海外移住と文化の交流センターの移住ミュージアムに移管され、一般公開されました。コーヒー文化の大衆化に果たした移民の役割りがようやく注目されはじめています。

■第480回■ 9月1日(土)

絶滅危惧生物と人の交わり

—— 捕獲、鑑賞、保全を中心に
岸上伸啓(人間文化研究機構理事、民博併任教授)

現生人類は約二〇万年前にアフリカにおいて出現し、約六万年前に一部の人びとがそこを出て、世界各地に拡散しました。そしてその後の人口増加と生産活動の拡大によって周りの環境や各地に生息する生物に大きな影響をおよぼすようになりました。その結果、動物の中には絶滅する種や絶滅の危機に瀕する種が増え続けてきました。

本講演では、絶滅危惧種について概説した後に、北アメリカ地域に生息するホッキョククジラ、ホッキョクグマ、ラッコとバイソンを事例として絶滅の危機に瀕している動物について歴史的に紹介し、人間と生物の関係の変化について検討を加えました。これらの動物は、交易のための捕獲などの人間の活動や地球温暖化のような環境変動が原因で激減しましたが、現在、保護や保全の対象となっています。

近年の動向として、人間は多種多様な動物を食料や原材料として利用し続けている一方で、愛玩動物の飼



イヌピアットはクジラを保護しつつ、一部を利用している

育や動物園・水族館での動物の展示、野生動物の観察などのように動物を生きたままでも利用することや、特定の動物を絶滅から防ぐために保護や保全を行うことが増加しています。人間が動物を利用し続けるにしても、保護・保全するにしても、それらの動物の存続が前提となります。人間が野生動物を管理することは難しいことですが、人間側の活動を自己管理することによって両者に益するように上手につきあっていくことはできます。人間の地球上で果たすべき役割は重大です。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会
一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00) FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

もっと早く、もっとたくさんの情報を
手に入れたい方に

Twitter

『季刊民族学』をよりお楽しみいただける最新情報、見どころなどを発信します。

<https://twitter.com/KMinzokugaku/>

Facebook

「友の会ニュース」では紹介しきれない友の会の催し、刊行物などの情報を提供します。

<https://www.facebook.com/minpakutomo/>